

益城町「まち・ひと・しごと創生総合戦略」審議会（第3回）議事録

日時：2020年2月18日（火） 10：00～12：00

場所：役場仮設庁舎別館2階大会議室

出席者：鈴木会長、稲田委員、住永委員、犬飼委員、宮田委員、武原委員、上野委員、倉田委員、永石委員、岩下委員、澤田委員、清水晃委員、橋場委員、堀川委員、木村委員、福永委員（淵上委員、三輪委員、小葉委員、清水由衣子委員は欠席。淵上委員の代理として、JAかみましき益城支所の光永支所長が出席。）

内容：

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議事

事務局より、以下の3点について資料に沿って説明がありました。

- ・ 第2回総合戦略審議会で頂いた意見と第2期総合戦略案への反映について
- ・ 住民等ワークショップ「ましきまち戦略会議2020」の開催報告について
- ・ ましきまち戦略会議2020で頂いた意見と第2期総合戦略案への反映について

4. 意見交換：

- （委員） いつもうるさく言ってきているが、それはあくまで子どもたちが住みたい町になっていけばという想いでやってきた。皆さんのアイデアを入れていくのは良いことだと思うが、分かりにくいところもある。益城町は土壇場にある。益城町の発展がどうなるのだろうと思っている。国からの方針に従ってやっていくのは良いことだが、町の発展というのは何だろうかと思った時、大変革をしなければ人口が減少してしまう。県の商工観光労働部と会ってきたが、町として良いという意見は是非出してほしいとのこと。細かいことは先で良い。土台をきちっとするべきと思う。企業でも製造業を持ってくるとか、県の後を行くのではなく町の考えでどんどん行ってほしい。ICができるときに、町は企業で生きていくか農業で生きていくかという議論があった。質問に対して答えを頂いていないように思う。「頑張っている」という風に事務的な対応をされているが、これからどう進んでいくかが見ものと思っている。益城町のことを思っている意見を言っている。やっていることが戦略的かどうか、と思っている。
 - （委員） 土地改革も重要なこと。農業の将来と誘致企業の将来の生産額を比較して考える必要がある。今は農業も良いかもしれないが、将来のことを考える必要あり。10年先、20年先に気づいても手遅れになる。それを検討してほしい。
 - （事務局） 企業誘致については、町として重要なことと思っている。企業誘致についてはこれまでは「待ち」の状態で積極的に進められなかったところもある。それで後れを取っているところも

あるかもしれない。今は、町長がトップセールスという形で打って出ていくなど進めている。また、土地利用については都市計画マスタープランを策定しているので、それに従って、県との調整もとりながら、企業誘致に積極的に取り組みながら、目標人口の 36,000 人に向けてしごとづくりに積極的に取り組みたいと考えている。

- (委員) 県はどんどん来て良いと言っている。良いところがあればどんどん取り込んでいくということ。企業は失敗すると倒産。それと同じくらいの気持ちで取り組んでほしい。「今のままで良い」という人もいるが、それは第三者の見方。益城町が将来に向けてやっていこうとすれば、震災を機にしっかりとやらなければならないといけないと思う。
- (委員) 委員から厳しい意見が出たがその通りと思う。私も地元益城で事業を行っているが、益城で施設を作りたいと言っても拒否される。なので、嘉島にも大きな施設を作った。宇土にも作った。今は福岡に作っている。農地。県の土木部長に話をしにいくと、「町から話が出てこないといけない」と言われる。市街化区域がこんなに狭い、という言い方をされている。他の所は町長や総務課長が自ら出てこられる。益城の企業なのに益城でできないというのがずっと昔からの状況。平成元年の時に井関の所の高台に 14,000 坪の倉庫を作るとのことだったができなくて、その時に鏡町からすぐに呼ばれて作った。第二空港線と地域再生道路の間が重要。地元で事業をやりたいというのに他所でばかりしている。福岡で施設作るが、できれば益城町でやりたいと思っている。これが現実ということを知っていただきたい。
- (委員) 企業誘致について益城町にとって一番重要な課題と思っている。土地利用については、歴代の町長さん方が益城町に企業誘致をしたいというのはずっと持っておられた。だが、そのときに限られた地域しかなかった。いろいろな企業からの声もかかっている。委員の企業は益城町の企業なので、益城町でしたいというのはもっともと思う。町としても第一の重点施策としてほしい。都市計画マスタープランも策定中で空港のあたりを産業の場所とするのであれば、地域再生道路の北側を産業道路に入れていくなればという話もある。また、市街化区域を増やしていくという話もある。現実的なプランを県とも調整しながら、一日も早く企業に来ていただく、住永さんの会社にもできるなら益城町に作ると言われているのでそれもやる、ということをお願いしたいと思う。益城町の現状としては、以前からずっと話が出てきたこと。益城町の場合は企業誘致をする場所がなかったということ。その考えが甘かったのではないかとも思うが、これを機会として、復興に向けて進んでいく中で一番重要な施策と思うので、担当の方もしっかりと頑張りたいと思う。
- (委員) 規制緩和が必要。農地が本当に有効に活用されているか。10 年後、20 年後に「企業誘致しておけばよかった」と思うかもしれない。農業で生きていくのは難しいと思う。
- (委員) 県がダメと言う、という想いでいたが、県に言う「町から話が出てこなかった」ということ。歴代の町長が一所懸命じゃなかったということかもしれない。
- (会長) 総合計画の際にも出てきた話題。違う表現をすると、土地利用計画と戦略がきちんとリンクしていない、その熱意が欠けていたのではないか、というご指摘だと思う。こういう方向でしっかりと受け止めていただき、町の方でも取り組むということになっていくのではないか、そういう

風に要望したいと思う。

- (委員) よくできていると思う。一つだけ質問。この成果指標の目標数値について、例えば若い世代の移住について 1.00 というのが良いというのは何を基準にしているのかというのを教えてもらえれば幸い。難しいのが結構あるように思う。その説明をしてもらえるとありがたい。
 - (事務局) ご指摘いただいたところについては、都市計画マスタープランでとったアンケートがあって、そこで「0」が「どちらでもない」というところから、「1」「2」という点数になっていたが、その結果が平均して「0.48」というところだったというのを基準値に入れている。それをさらに多くの方が「住みやすい」と思っていたできるようにしていこうということで、平均で「1」というところを目指していくということで入れさせていただいた。今後、この達成状況を見るためには、アンケートを取りながら確認していく必要があると考えている。
 - (会長) 説明を聞いたら分かるので、これを読んだ人が分かるように説明を入れておいてほしい。
 - (事務局) 了解。注釈等を入れておきたい。
 - (会長) その視点を持って、「ちゃんと伝わるか」という点でチェックしていただければ幸い。
- (委員) 何でもデータの比較で判断していくことが重要と思っている。合志市も菊陽町も出ていると思うので比較してほしい。また、戦略を実行に結び付けていけないと思う。事務局は苦労されているので分かっていると思う。しかし、それを管理される上司の方がそれを理解しなければならない。うるさく言わないと町が変わらないと思うので、そういうつもりで意見をさせていただいた。
- (委員) 現在作っているのが、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の第 2 期で、5 年間という短い期間の戦略を作っているが、我々が「戦略」というときに考える長期的なものとし期間が違うのかもしれない。本当の意味での戦略というのは、総合計画であったり都市計画マスタープランであったりが町全体を考えるものになるかもしれない。今回お示しいただいた「ましきまち戦略会議 2020」ということで、短期的にすぐやれることはこれ、長期的に考えるべきはこれ、というのを沢山出していただいたのは非常に素晴らしいと思う。長期的に考えなければならぬものをできるだけ活かしていくというのを考えなければならない。これは益城町の財産。総合戦略は 5 年間のスパンなので書けることは限られるが、戦略会議の方を、戦略会議 2020 から 2030、2040 というところにつなげてほしいと思っている。参加された方が実行していこうとなると思う。明日の益城町を担う人材づくりにもつながると思う。これを単純に総合戦略を作るための意見をもらう場とするのではなく、少し長い目を持って続けてほしいと思う。是非、今生まれた種をずっと育てていくことを願いたい。今後の要望として。
 - (会長) このアイデアは非常に良く、集まっていた方が町のことを考えていこうという声もあったように伺っている。
 - (事務局) 益城町戦略会議のメンバーの中からも「自分たちでこういう会議を続けていきたい」という声をいただいた。益城町としてもそれを一所懸命支えながら続けていきたいと思っている。頂いた提案についても「～しよう」という表現にしている。行政ばかりがやるのではなく、住民の方々や町の中で仕事をされている方々が一緒になって取り組んでいこうという意味も込めている。皆さんと一緒に続けていきたいと考えている。

- (会長) 提言の扱いについては、総合戦略とセットにして出すということで良いか。
 - (事務局) 今回いただいた提言書については、総合戦略とあわせて一冊の冊子にして出していきたいと思う。総合戦略には計画的な内容が書かれており、付属資料として提言書をつける。何をしていくべきか、ということを行行政等で考えるときに参考にすること。
 - (会長) すごくユニークで良いやり方と思う。文章として計画を作ることも大事だが、それが自分たちの生活の中にどう反映されるか、どう関わって行けるか、というのが、こういう具体的なもので示されると、読んだ方がより身近に感じられるのではないかと思う。
- (委員) 戦略会議に参加させてもらった。戦略というのは大きな考え方になるべきところと思う。「今すぐできる」から「将来できる」ものに分けて議論した。「今すぐできること」に書かれていることを既にやっている方が沢山いらっしゃるな、と認識を受けた。いつどこで誰が何をするか、というのが積みあがっていかないといけない。また、何をしたというのをしっかりと消し込んでいかないといけないと思う。せっかくならば、全部は無理にしても、やっていくことを積み重ねていくことが大事と思う。どういう風に行うかというのがあると思う。
 - (事務局) 頂いた提言については、行政内部の担当者に伝えながら、それを実施計画にして進めていきたいと思っている。また、できたかできなかったかというのについては、戦略会議メンバーとも一緒に見ながらチェックしていきたいと思う。
 - (委員) 普通の企業だと目標を決めたら、いつ、だれが、どうするのか、課題をどうクリアするのか、というのを決めて進めていくが、行政だとそれが沢山あるので、指揮をする人はそれをしっかりとチェックしていかなければ進まないものも出てくると思う。見える化するということも大事。
 - (会長) 通常のやり方だと「進行管理をしていく」ということになる。それも大事だが、ワークショップの持っているエネルギーをそこに 100%流し込むと、エネルギーがなくなるのではないかという危惧もある。そこはとても難しいところと思うが、これを進めていくやり方についてもワークショップで出してもらって提言していけると良いと思う。総合戦略と提言とをセットにして出していくというのは良いと思う。残る問題はその両者のリンク。提言で具体的にやろうと言っていることと KPI とがどうリンクしていくのか、ということ。場合によっては KPI を修正していくということも視野に入れて良いと思う。
 - (委員) そう思う。実際に議論していると KPI が違うかな、というものもあった。
 - (会長) 自分たちの思いが表現できる KPI というのもどんどん出していきながら作っていくかと思う。
 - (委員) 系統的に分かりやすくしないと部下は分からない。何をしなければならぬか、というのを目に見えるかたちで管理してほしいと思う。人を増やすために何を必要があるか、急ぐもの、急がないものと分けてほしいと思う。
- (委員) 農業の人口はこれで良いのか、ということは考えてほしい。土地の有効活用という観点から考え方をお聞きたい。
 - (委員) 農業は面積は広いがどういう産業としてやっていくかということは考える必要がある。我々は JA という立場として農業の振興を考える必要があるが、企業誘致と裏表。単位面積

収量を上げることで収入を上げていくということもある。共に発展していけるようになればと思っている。

- （会長）両者はゼロサム関係ではないと思う。それをバランスするのが都市計画マスタープランだと思う。担当部署にその点はしっかりと伝えてほしい。
- （会長）総合戦略と提言をセットにして作るということで、大きな修正はないと思うので、文言等の修正になると思うが、それは会長一任ということで進めていきたいと思う。それで良いか。
- （委員全員）了解。

5. その他

- （事務局）閉会の前に、この場をお借りして委員の皆さまにお礼の言葉を述べさせていただく。第1回審議会から本日まで感謝する。皆様のご指導・ご助言により良い戦略ができたと思う。3/2に鈴木会長から町長に対して答申いただく予定。その後、委員の皆さまにはお送りしたいと思う。また、委員の皆さまの委嘱期間については、令和元年度から3年間となっている。進捗状況の報告と客観的な検証をしていただき、必要な修正をしていきたいと思う。住民の皆さんや関係団体、議会と一緒に持続可能なにぎわいあるまちづくりを進めていきたいと思っている。今後も町政運営にご協力をいただければ幸い。

6. 閉会

以上